

Bグループ

東 友起子（荒屋小） 瀬堂香織（那谷小）
清水富美子（苗代小） 宮岸恵子（蓮代寺小）
玉田紀子（矢田野小） 山本美由紀（栗津小）
西尾万知子（国府小） 宮崎かおり（能美小）

「あたりまえだけど、とても大切なこと」

平成23年度 小松市立学校PTA 連合会
母親委員会 Bグループ

テーマ設定の理由

母親委員会で矢原珠美子先生による「これからの家庭教育」というテーマの講演会がありました。

生活をともにすることの大きな意味をもつ『家庭』で子どもは生活リズムがつき、しつけを身につけ、夢をはぐくみます。今こそ、家庭教育総点検のときであり、何よりも「生きる力」をつけてほしいものだという講演でした。

子どもにしつけの贈り物をと、紹介された本に興味を持ち読んでみたら、気づかされる点があり、皆さんにも紹介しようと思いました。

講演で紹介された書籍



著者 ロン・クラーク
出版社 (株)草思社

アメリカの小学校教師でもある著者が、学習や行動に問題をかかえる生徒の多い学校で、生徒たちにルールを身につけさせるための涙ぐましい努力や生徒たちがみるみる変わっていく様子など、ユーモラスで感動的なエピソードが満載です。

この本には、「あたりまえ」のルールが1から50まであります。これから、いくつかを抜き出してみます。子どものためのルールを子どもにいう前に、親がちゃんと知っていますか？自分はできていますか？手本になっていますか？

相手の目を見て話そう (ルール2)

Q アイコンタクトしていますか？

Yes アイコンタクトは、自信を見せるための方法であると同時に相手に敬意を表すための重要な方法でもある。

No 自信がない証拠か、ほんとうのことをいっていないと受けとられる可能性もある。

アイコンタクト
さえ忘れなければ、
相手はこちらの
いうことを真剣に
受けとめ、正しい
評価が得られる。

できるかぎり整理整頓しよう (ルール 17)

Q 整理整頓の仕方を教えたことがありますか？

Yes 教えた方法を学校で利用できるようになるのはもちろん、社会に出てからも利用できる。

No 間際になってからあわてて必要なものを探しまわり、不要なものを買ってしまい無駄になる。

説明は具体的に。
整理した写真や
具体的な手本を
見せるとよい。

お世話になった人にはお礼をいおう (ルール 37)

Q 「ありがとう」は言っていますか？

Yes だれかがわざわざ時間を割いて何かをしてくれたときには感謝の気持ちをあらわすのがあたりまえであることを教えたい。

No 時間を割いてくれた人に感謝し、よい経験ができたよろこびを態度であらわすべきだ。

さんざん「ありがとう」の練習を重ねたあとでも、相変わらず「ありがとう」というのを忘れる場合がある。

子どもにある習慣を植えつけるには、何度もくりかえし教える必要がある。

まちがいを受けいれよう (ルール 47)

Q まちがいを受けいれることができますか？

Yes まちがいは起きる。それを受けいれ、そこから学ぼう。

No 自分を奮いたたせて起き上がり、経験から学んで先に進もう。
まちがいをおかすのも人間のいとなみの一部であり、いくら年齢を加えていようと、いくら経験が豊かだろうと、ときにはそういうことをしないと限らない。経験を積むにつれて、同じまちがいをおかす頻度が少なくなる。

まちがいを
おかしたからと
いって、二度と
立ち上がれない
ようでは困る。

いつも正直でいよう (ルール 48)

Q どんなときも正直でいられますか？

Yes ほんとうのことをいうのは何より大事である。
その理由は、相手の尊敬と信頼というきわめて
価値のあるものを得ることができるからである。

どんな事情だろうと、
いつも正直でいよう。
たとえ悪いことをし
たときでも、正直に打
ちあけるのが一番。

No 正直に話せば必ずそれに報いられる。ときには、罰を与えたいような
ことをしてかしても、もし正直にそれを認めるなら、罰は与えられない。

叱られるのを避けようとして真っ赤なうそをつくだろう。
よくないことをしたのを正直に認めれば、その正直さに免じて厳しい罰を
受けずにすむことに子どもたちが気づくには、長い時間と忍耐が必要だ。

きみのなれるもっともすばらしい人間になれ (ルール 50)

長い人生のあいだには、さびしさを感じることもあるだろう。
悲嘆にくれることもあるだろうし、自分の人生から何かが消えてし
まったような思いになることもあるだろう。どんな人生にも、ある
程度の苦しみと悲しみがついてまわる。だが、どれほど悪いことが
起きようと、いつも自分が成長して、自分のなりたい人間、他人が
まわりにいてほしいと思う人間になるための努力を忘れてはいけな
い。外的な要因で自分の人となりを変えたり、なろうとしている人
間になるのを妨げられたりしないことが大切だ。

笑い、家族、冒険、よい食べ物、挑戦、変化、そしてたえざる知
識の探求—その 7 つがあれば、人は成長し、人生を楽しみ、自分
でも誇りをもてる人間になれるはずだ。他人に救いの手をさしのべ、
助言を与え、みずからの過ちから学ぶ人になれるはずだ。

なぜならば、あなたは強く、健全で、幸福な人なのだから。



子どもとのつきあい方

子どもを相手にするときには、賢くならなければならない。一般的に、子どもについてはつぎの4つの普遍的真理があると考えられる。

1. 子どもは安心感を求めると同時に、威厳をもって自分たちを管理監督してくれる人物を求めている。
2. 子どもは、ひとりの人間としてのあなたが好きなら、あなたのために一生懸命に努力する。
3. 子どもは自分に何を期待されているかを知りたがる。
4. 子どものことを気にかけ、愛しているところを見せることで、やる気に火がつく。子どもは自分が愛されていることを知りたがっている。

明確なルールをつくって、子どもたちが安心感と居心地のよさを感じられるようにしよう。

子どもと大人では同じ問題のとらえ方がまったくことになっているもの。

罰と褒美

罰則や褒美を効果的に与えるのはその対象となるできごとが起きた直後でなければならない。できごとに時間的に近ければ近いほど、子どもに与える影響は大きい。

子どもに罰や褒美を与えるときには、できるだけシンプルで簡単な方法をとるように。自分の行動の結果としての罰は必要。それは子どもがちゃんとした子どもになるためのカギでもある。おもな褒美のひとつは、古きよき時代から伝わるほめ言葉。可能なチャンスをとことくとらえて、子どもがよくやったことを知らせ、特定の分野にもつ才能を知らせる。ほめ言葉は、1対1でほめるのが効果的だが、最も効果的なのは、みんなの前でほめ、敬意を表すこと。ほかの子どもたちの前でかけられた場合、きわめて強力な説得のテクニックになることがある。

まとめ

子どものためのルールを、自分が子どもと接する中でできているかな？自分の子どもに教えているかな？子どもにいう前にまずは親がちゃんと知る必要があるなと思いました。

今回ご紹介したのは、ほんの一部にすぎません。是非、皆さんにも読んでいただきたい。そして、子どもたちに充実した人生を送ってほしいと願います。